

テラヘルツテクノロジーフォーラム通信

Vol.15、 No.1

巻頭言

テラヘルツテクノロジーフォーラム 副会長 大谷知行

新たに 2017 年度を迎えるにあたり、毎年恒例である前年度の振り返りと今年度の展望について述べたいと思います。2016 年度のテラヘルツテクノロジーフォーラムにとって最も大きな変更の一つは、フォーラム事務局の変更でした。ここ数年、効率的な運営のために様々な形態を模索してきましたが、本フォーラムでは昨年度から事務局を（株）ポラリス・セクレタリーズ・オフィスに委託し、新体制の運営をスタートさせました。この新体制は、同社の協力のもと、まずまずのスタートを切れたのではないかと感じています。

学術的な活動としては、2 回の技術セミナーを開催しました。とりわけ、分光学会、応用物理学会、電子情報通信学会、福井大学との共催で福井にて開催された研究会「テラヘルツ科学の最先端 III」では、113 名もの参加者が集い、講師の質も高く、非常に活発な議論が行われました。また、会員への情報提供サービスとして、四半期に一度、テラヘルツ関連の論文リストをまとめて提供するサービスを開始しました。このような最新トレンドを紹介するサービスの一環として、今後、Laser Focus Japan 誌との提携についても検討を進めています。さらに、2018 年に日本開催が決定した第 43 回赤外・ミリ波とテラヘルツ波に関する国際会議（IRMMW-THz 2018）の準備も本格化してきました。本フォーラムではこの会議を後援するとともに、谷正彦会長が同会議の共同議長を務めるなど、多くのメンバーが様々な形で運営に携わっており、今後もテラヘルツ分野を盛り上げるべく協力を進めていければ、と考えています。

上記の活動に加えて、2017 年度はテラテクビジネスセミナーに大きな変化が見られる予定です。ここ数年、同セミナーは展示会 All About Photonics と提携して行って来ましたが、2017 年度は同展示会が国内最大規模の技術系展示会の一つである CEATEC Japan と同時開催されることになりました。また、昨年度に引き続き、テラテクフォーラム会員に特典を設けた展示ブース「THz ゾーン」も企画しております。例年に比べて入場者が大幅に増加することが期待されますので、ぜひ多数の会員の方にご参加いただき、多方面に向けて積極的な PR をお願いできれば、と思います。

最後に、テラヘルツ技術の産業動向について、私見を述べさせていただきます。テラヘルツ分野では、長らくカラーアプリケーションが生まれてこないと言われてきました。しかし、テラヘルツ分野の応用開拓はすでに非常に幅広い分野で行われてきており、一言では紹介できないくらいの種類や数の豊富さを誇っています。一方、応用が爆発的に広がるまでにはまだ至っていないのも事実です。では、その要因を考えてみると、その一つにコンポーネントの高額さ、もしくは、コンポーネントが発展途上であることがあるのではないかと思います。これを見るに、テラヘルツ分野で足りないのは「カラーアプリケーション」ではなく、むしろ「カラーコンポーネント」ではないかと感じます。このようなコンポーネント開発には時間もコストも要しますが、多くの方々のご尽力のもと、国内でも海外でもその開発は着実に進んできています。このような動向から、近い将来にテラヘルツ技術が多方面で使われるのは確実だろうと感じますし、カラーコンポーネントの出現によって、急激に広がっていく展開を期待できるのではないかと考えています。そこに至る期間を少しでも短く、また、広がり大きくするためにも、今後もフォーラム活動を盛り上げていければ、と思います。